※令和４年度以降入学生用

学校番号	１０１３

令和８年度　数学科

教科	数学科	科目	数学Ⅰ	単位数	１単位	年次	１年後期
使用教科書	高等学校　数学Ⅰ　（数研出版）						
副教材等	４プロセス　数学Ⅰ＋A（数研出版）　　チャート式　数学ⅠA（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。
・「課題を理解する→結果を予想する→解決の方向を構想する→解決する→過程を振り返ってよりよい解決法を考える」といった一連の過程を重要視しています。
・問題集用のノートを用意してください。
問題集の問題をまず自分で解いてみましょう。ただ答えを求めるだけでなく、途中式や考え方も書くようにしましょう。また、各自答え合わせをしてください。答え合わせは、自分がどこでつまずいたかを知るための大切なものです。
・家庭学習で各自問題を解き進め、それらを課題として提出してもらいます。日々努力を積み重ねて、あきらめずに取り組みましょう。

2　学習の到達目標

・データの分析についての基礎的な知識や技能を習得する。
・事象を数学的に考察する能力を培う。
・数学のよさを認識し、数学を活用する態度を身に付ける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・「データの分析」についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行うことで問題を解決し，また解決の過程や結果を批判的に考察し判断する力を身に付けている。	・数学のよさを認識し数学を活 用しようとしている。 ・粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って 考察を深め，評価・改善しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

後期	データの分析	データの整理	a:データを度数分布表に整理し，それをヒストグラム，箱ひげ図に表すことができる。 データの平均値，中央値，最頻値，四分位数や四分位範囲が求めることができる。 分散や標準偏差，相関係数を求めることができる。 仮説検定の考え方を理解している。特に，仮説が棄却できない場合の解釈について正確に理解している。 b:データの散らばりの度合いを，範囲や四分位範囲，分散や標準偏差を用いて判断できる。複数のデータの分布を，箱ひげ図を用いて比較できる。 散布図をかいて，相関の有無や正負を判断できる。 データを分析することで問題を解決し，その結論および過程について表現することができる。 仮説検定の考え方を用いて，適切な判断ができる。 c:事象をデータの分析の考えを用いて考察するよさを認識し，問題解決にそれらを活用し，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。また，問題解決の過程を振り返って考察を深め，評価・改善しようとしている。	ノート ワークシート 考査	ノート ワークシート 考査	ノート ワークシート
		データの代表値		ノート ワークシート 考査	ノート ワークシート 考査	ノート ワークシート
		データの散らばりと四分位数		ノート ワークシート 考査	ノート ワークシート 考査	ノート ワークシート
		分散と標準偏差		ノート ワークシート 考査	ノート ワークシート 考査	ノート ワークシート
		2つの変量の間の関係		ノート ワークシート 考査	ノート ワークシート 考査	ノート ワークシート
		データの分析を活用した問題解決		ノート ワークシート 考査	ノート ワークシート 考査	ノート ワークシート
		仮説検定の考え方		ノート ワークシート 考査	ノート ワークシート 考査	ノート ワークシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度